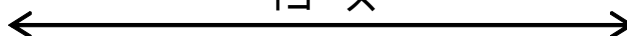


# 血液内科68 DKd

☆適応疾患名: 多発性骨髄腫

1コース



## 【1コース目】

			投与スケジュール			
薬剤	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week	4week
ダラザレックス	8mg/kg	点滴静注	day1, 2			
	16mg/kg	点滴静注		day8	day15	day22
カiproリス	20mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	day1, 2			
	56mg/m <sup>2</sup>	点滴静注		day8, 9	day15, 16	
デキサート	33mg/week	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	day22

## 【2コース目】

			投与スケジュール			
薬剤	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week	4week
ダラザレックス	16mg/kg	点滴静注	day1	day8	day15	day22
カiproリス	56mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	
デキサート	33mg/week	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	day22

## 【3～6コース目】

			投与スケジュール			
	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week	4week
ダラザレックス	16mg/kg	点滴静注	day1		day15	
カiproリス	56mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	
デキサート	33mg/week	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	
レナデックス	40mg/week	内服				day22

## 【7コース目以降】

			投与スケジュール			
	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week	4week
ダラザレックス	16mg/kg	点滴静注	day1			
カiproリス	56mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	
デキサート	33mg/week	点滴静注	day1, 2	day8, 9	day15, 16	
レナデックス	40mg/week	内服				day22

ダラザレックス(ダラツムマブ):ダラザレックス点滴静注100mg, 400mg

カiproリス(カルフィルゾミブ):カiproリス点滴静注用10mg, 40mg

デキサート(デキサメタゾン):デキサート注射液6.6mg

レナデックス(デキサメタゾン):レナデックス錠4mg

プレメディケーション:ダラザレックス投与60分前にカロナール500mg 1錠、  
レスタミン10mg 5錠、モンテルカスト10mg 1錠を内服

	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ダラザレックス	●※1							●※2						
カイプロリス	●	●						●	●					
レナデックス or デキサート	●	●						●	●					
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	●※2							●※2						
	●	●												
	●	●						●						

※1: 1コース目のダラザレックスは d1,2 のみ分割投与

※2: 3~6コース目はダラザレックスの d8, 22 を省略、  
7コース目以降は d15 も省略

◎必ずポリエーテルスルホン製の 0.2 ミクロンのインラインフィルターを用いて投与すること

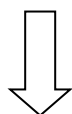
ダラザレックス、およびカイプロリス投与日

【1コース目 day1, day2】

	本管	側管
↑ 30分 ↓	5%ブドウ糖液100mL (ルートキープ)	デキサート16.5mg 5%ブドウ糖液100mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ
↑ 10分 ↓		カイプロリス 20mg/m <sup>2</sup> 5%ブドウ糖液 50mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ

注)カイプロリスの溶解は5%ブドウ糖液または注射用水を使用する

Cl<sup>-</sup>イオンを含む輸液との配合不可



カイプロリス投与終了後

	本管	側管
	生理食塩液 100mL (ルートキープ)	
↑ 1時間 ↓		
↑ 1時間 ↓		ダラザレックス8mg/kg 生理食塩液 500mL (投与速度50mL/h)
↑ 1時間 ↓		(投与速度100mL/h)
↑ 1時間 ↓		(投与速度150mL/h)
↑ 最後まで ↓		(投与速度200mL/h)

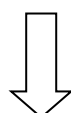
カロナール500mg 1錠  
レスタミン10mg 5錠 内服  
モンテルカスト10mg 1錠

※ダラザレックス+生食は全量を500mLとする

【1コース目 day8】

	本管	側管
30分	5%ブドウ糖液100mL (ルートキープ)	デキサート16.5mg 5%ブドウ糖液100mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ
10分		カイプロリス 56mg/m <sup>2</sup> 5%ブドウ糖液 50mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ

注)カイプロリスの溶解は5%ブドウ糖液または注射用水を使用する  
Cl<sup>-</sup>イオンを含む輸液との配合不可



カイプロリス投与終了後

	本管	側管
1時間	生理食塩液 100mL (ルートキープ用)	
1時間		ダラザレックス16mg/kg 生理食塩液 500mL (投与速度50mL/h)
1時間		(投与速度100mL/h)
1時間		(投与速度150mL/h)
最後まで		(投与速度200mL/h)

カロナール500mg 1錠  
レスタミン10mg 5錠 内服  
モンテルカスト10mg 1錠

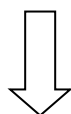
※ダラザレックス+生食は  
全量を500mLとする

【1コース目 day15以降】

	本管	側管
↑ 30分	5%ブドウ糖液100mL (ルートキープ)	デキサート16.5mg 5%ブドウ糖液100mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ
↑ 10分		カイプロリス 56mg/m <sup>2</sup> 5%ブドウ糖液 50mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ

注)カイプロリスの溶解は5%ブドウ糖液または注射用水を使用する

Cl<sup>-</sup>イオンを含む輸液との配合不可



カイプロリス投与終了後

	本管	側管
	生理食塩液 100mL	
↑ 1時間		
↑ 1時間		ダラザレックス16mg/kg 生理食塩液 500mL (投与速度100mL/h)
↑ 1時間		(投与速度150mL/h)
↑ 最後まで		(投与速度200mL/h)

カロナール500mg 1錠  
レスタミン10mg 5錠 内服  
モンテルカスト10mg 1錠

※ダラザレックス+生食は全量を500mLとする

カiproリスのみ投与

	本管	側管
↑ 30分 ↓	5%ブドウ糖液100mL (ルートキープ)	デキサート16.5mg 5%ブドウ糖液100mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ
↑ 10分 ↓		カiproリス 56mg/m <sup>2</sup> 5%ブドウ糖液 50mL
		5%ブドウ糖液でフラッシュ

注)カiproリスの溶解は5%ブドウ糖液または注射用水を使用する

Cl<sup>-</sup>イオンを含む輸液との配合不可

ダラザレックスのみ投与

	本管	側管
↑ 30分 ↓	生理食塩液 100mL	デキサート33mg 生理食塩液 100mL
↑ 1時間 ↓		
↑ 1時間 ↓		ダラザレックス16mg/kg 生理食塩液 500mL (投与速度100mL/h)
↑ 1時間 ↓		(投与速度150mL/h)
↑ 最後まで ↓		(投与速度200mL/h)

カロナール500mg 1錠  
レスタミン10mg 5錠 内服  
モンテルカスト10mg 1錠

※ダラザレックス+生食は全量を500mLとする

## ダラザレックス時間短縮投与

ダラザレックスの希釈後の総量及び投与速度(当院倫理委員会許可)

※同意書必要

投与時期	希釈後の総量	投与開始からの投与速度(mL/h)			
		0～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以降
初回投与	1000mL	50	100	150	200
2回目投与	500mL※1				
3回目投与	500mL※1	100※2	150	200	
4回目投与以降	500mL※1	200			

	本管	側管	
30分	生理食塩液 100mL	デキサート16.5mg 生理食塩液 100mL	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     カロナール500mg 1錠                      レスタミン10mg 5錠                      モンテルカスト10mg 1錠                 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">内服</div>
最後まで		ダラザレックス16mg/kg 生理食塩液 500mL (投与速度200mL/h)	

※ダラザレックス+生食は全量を500mLとする

注)3回目投与時に最終速度が200mL/hでインフュージョンリアクションが認められなかった患者に限り、4回目投与以降の投与速度を200mL/hで開始し最後まで行う。また上記のように前投薬服用のタイミングを変更する。